

◎市長（作野広昭君） 小川議員の一般質問にお答えしたいと思います。

初めに、市政の現状認識と今後の市政運営に当たる政治姿勢についてであります。

先ほど清水議員の御質問にもお答えいたしましたとおり、私は、市議会や県議会議員の活動を通して、さらには選挙期間中、市内全域に足を運び、そこに住む市民との対話を重ねてまいりました。さらに、就任以来、市政の懸案・重点事項について、事業ごとに担当部局とのヒアリングを重ね、協議してまいりました。

その中で私が特に感じたことは、広い市域において、学校建設やインフラ整備、地域活性化策など一定の成果を上げている施策がある一方で、地域のニーズがそれぞれ異なり、さらに多様化していることに対し、市の施策が必ずしも対応し切れておらず、残念ながら、市民が合併して白山市になってよかったと十分実感できていないのが実情ではないかということでもあります。

一方で、皆さんも御存じのとおり、本市には古きよき時代の人情や文化、歴史、観光資源が豊富にあり、これらは胸を張って誇れるすばらしい本市の財産であると考えております。これらを有効活用することが地域の振興策となり、白山市全体の発展につながるものと確信いたしております。今後とも、対話を通じた「市民参加の開かれた市政」を私の政治姿勢とし、地域のニーズを幅広くとらえるため、多くの方の声に耳を傾け、さまざまな御意見、御提言を広くお聞きするとともに、角前市長が取り組まれた施策を継承しつつ、全国の先進事例などを調査研究し、実効性のある新しい施策に取り組み、本市の基礎固めに全力を尽くしてまいりたいと考えております。

次に、今後の財政運営と市民サービスの両立についてお答えいたします。

さきの提案理由説明でも申し上げましたとおり、将来にわたり持続可能な行財政運営の確立に向けて健全財政を堅持していくことが、これからの市政の根幹をなす重要課題と認識をいたしております。

市民サービスの向上に向けての公約実現につきましては、職員とともに、市民目線に立つ中で、強くコスト意識を持ちながら、地方自治の本旨である最少の経費で最大の効果を原則に、行財政改革と並行し、効率性・有効性について十分検証しながら、施策の実現を図ってまいります。

また、市民生活に直結した緊急性ある施設整備につきましては、民間事業者の参入促進を図るとともに、財源的に有利な合併特例債を有効活用し、

将来負担も勘案しながら、計画的に整備を行い、健全財政の堅持と市民サービス向上の両立に努めたいと考えております。

なお、「子ども司書認定制度」の導入については教育部長より答弁させます。